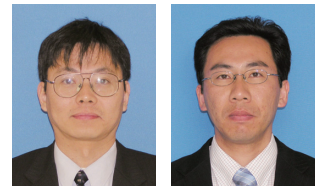


# 高潮・津波からの避難の意思決定要因



河川研究部 海岸研究室 室長 諏訪 義雄 主任研究官 加藤 史訓

(キーワード) 避難、高潮、津波、ソーシャルキャピタル

## 1. はじめに

台風接近時や津波警報発令時に、正常性バイアスなどのため、避難の必要性を認識しながらも避難しない住民が多いのが現状である。防災意識の持続に繋がる避難促進施策を検討するため、2006年11月の千島列島沖地震の津波と2007年8月の台風5号の高潮を対象に、避難の意思決定要因について調査を行った。

## 2. 調査方法

避難行動に関わる要因として避難情報、浸水に対する不安、防災への関心、先行体験、ソーシャルキャピタルなどを想定した仮説を立て、その要因に関わる項目について質問紙調査等でデータを得て、共分散構造分析により検証した。質問紙調査では、避難困難者および自動車運転者の有無、家屋形式、地震動や風雨の恐さ、浸水および危険性の予想、警報・避難勧告の認知、避難の意思・準備・行動、避難呼びかけ合いの有無、災害および避難の経験、防災訓練への参加状況、ハザードマップや浸水想定区域の認知、既往災害の認知、永住希望、ソーシャルキャピタル（他人への信頼感、近所つき合い、地縁活動、個人の活動）などについて回答を得た。また、回答者の位置情報を地理情報システムに入力し、回答者住居の標高や想定浸水深、水際（最も近い海岸線または河川）や避難所からの距離などを測定した。

## 3. 調査結果

一例として、千島列島沖地震を対象とした釧路市の最終モデルを図-1に示す。図において、要因

間の相関を表すパス係数（矢印の添字）に着目すると、浸水に対する不安から避難意図、避難行動へ至るパスが明瞭に現れているが、避難情報の認知は浸水に対する不安や避難意図にほとんど関係していない。このことから、津波警報や避難勧告の認知と浸水危険性の認識との間に乖離が生じていることが窺われた。また、津波の被災・避難経験が避難情報の認知、浸水に対する不安、避難意図に関わっていることが明らかになった。さらに、ソーシャルキャピタルに関わる要因は防災への関心を高めることを通じて避難情報の認知や避難意図を高めている可能性が示唆された。

## 4. おわりに

得られた結果をふまえて避難に関するワークショップを試行し、避難促進施策の効果的な進め方について検討を進めている。

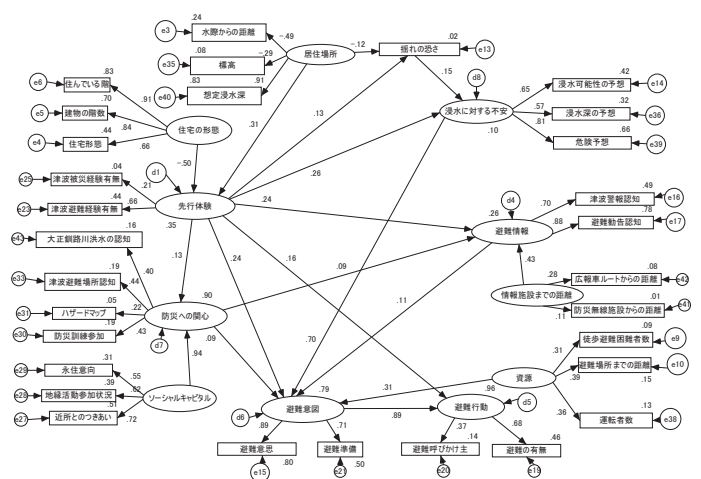


図-1 避難意思決定の最終モデル（釧路市）

<http://www.nilim.go.jp/lab/fcg/index.htm>

(海岸研究室)